

■視点1-②

《中期目標》問題に気づき、解決策を考え、伝え合う児童の育成

〈成果指標〉令和9年度の全国学力学習状況調査の標準化得点：国語100以上、算数100以上

【別紙様式例1】

《短期目標》学びの基礎・基本を身につけた児童の育成

〈成果指標〉令和6年度全国学力・学習状況調査【小6、中3】において、（県標準化得点〈県比〉国語85以上、算数（数学）80以上）、（四分位層C・D層の割合の合計〈県比〉国語50%以下、算数・数学50%以下）

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組（指標）〉

- ④家庭学習強化週間の実施（毎学期）（学級通信等で家庭に協力を依頼・連携）

〈成果（指標）〉

- ◆「10分×学年+10分」以上の学年目標家庭学習時間に取り組む児童の割合（80%以上）
- ◆「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」

■視点2

【授業づくり】

〔主体的な学習を目指す授業改善〕

〈取組（指標）〉

- ③1単位時間の中に、「学びの良さを自覚する」振り返り（か・わ・で・たい）を取り入れた授業（週案に本時の主眼を記入）

〈成果（指標）〉

- ◆児童による授業評価（「毎時間の授業の最後に何を学んだかわかる」3.5以上：4段階評価
- 〔書く力・交流する力の育成〕

〈取組（指標）〉

- ②「考えるための技法」を活用した書く・交流する活動を設定する。

〈成果（指標）〉

- ◆児童による授業評価アンケート（「ペアや班で自分の考えを説明したり、考えを比較したりして自分の考えをよりよいものにできたか」3.5以上：4段階評価尺度

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組（指標）〉

- ①⑤学力検査等に係る職員研修を実施する。（年間3回）
- ③④ICTを活用した共同的な学びの充実をねらいとした授業等実践の交流（年2回）

〈成果（指標）〉

- ◆教員アンケート「職員研修の内容は授業や家庭学習の改善に役立った」3.5以上：4段階評価尺度
- ◆授業評価アンケート（「カスタを活用したことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができた」3.5以上：4段階評価尺度）

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組（指標）〉①算数科における重点単元を位置付けた授業の実施

- ①③脳の活性化を図る朝の活動とチャレンジタイムの実施

- ③自分たちで目標を決め、取り組み、達成感を味わう活動の設定（年間3回以上：特活）

〈成果（指標）〉◆算数単元テスト（重点単元期待点以上85%）

- ◆記録（伸びが見られた児童100%）

- ◆キャリアノート「最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」（当てはまる：85%）

■視点1-①

県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

四分位層の県との差、標準化得点	国語					算数・数学				
	A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
R4 県調査	-20.2	-5.1	+8.6	+16.6	75.5	-20.1	-8.5	-5.0	+33.7	67.8
R5 全国調査										
課題	・国語、算数ともに、どの領域も全国の数値をかなり下回っている。特に国語は「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数は「図形」「変化と関係」に課題 ・学力中低位層の割合は、全国に比べてかなり高い。（国語・算数） ・県学調の結果が国語R1(95.0)→R4(75.5)算数R1(117.6)→R4(67.8)で下降									
質問紙調査等	・「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」（全国比-34.4） ・児童による授業評価アンケート「授業の終わりに自分なりに振り返ることができた。」（評定2.8：4段階評価尺度） ・授業チェックリスト「自己の学びの変容を自覚させる工夫がなされている」（評定2.2：4段階評価尺度）									

- ①基礎基本が定着していない児童への指導の工夫が不十分
- ②自分の考えやその理由をまとめる「書く力」を高める授業づくりが不十分
- ③児童が自身の学びを自覚できる授業づくりが不十分
- ④家庭学習が習慣化していない児童への手立てが不十分
- ⑤9か年を見通した学力向上の取り組みの必要性